県立図書館・公文書館　第３回共同展示

横濱三塔物語　-King・Queen・Jack を巡る旅-
～県立図書館・公文書館収蔵資料から～

開催にあたって

港町横浜。港を象徴する代表的な近代建築として、キング(神奈川県庁)、クイーン(横浜税関)、ジャック(横浜開港記念会館)という横浜港を代表する三つの塔をご存知でしょうか。県立図書館と公文書館では、「横濱三塔」といわれるこれらの近代建築にまつわる過去と現在を、それぞれが収蔵する図書や公文書等の資料により、ご紹介する共同展示を企画しました。横浜港のランドマークとして、戦災など災害を乗り超え今なお現役としてそびえる三つの塔の資料をご覧いただき、過去の記録を保存することの大切さと、そうした記録を現在および将来にわたって活用することの意義とともに、三塔が織りなす港ヨコハマの歴史を感じ取っていただければ幸いです。

本パンフレットをご参照いただきながら、展示をご覧になると、よりご理解が深まるのではないかと考えております。

三塔の概要と「横浜三塔物語」

「横濱三塔解説(No. 1)」は、三塔についての概要をまとめてパネルにしたものです。

パネルの画像はほぼ全て、今回の展示資料より引用されたものですので、パネルの画像などから気になる展示資料を見つけていただくきっかけにしていただければと思います。

○「横濱の三塔」

パネル中央に三塔の画像が並んでいますが、これは**『横濱港(No. 9)』**に収録された写真から引用したものです。

この冊子は昭和９年 10 月発行ですが、同年４月にクィーンの塔(横浜税関)が竣工しており、三つの塔が揃った時点で「横濱の三塔」という表現が既に使われていたことを示している資料です。

○　三塔の見える場所

『神奈川縣廳物語(No. 3)』182 ページの「横浜三塔・・・三説」では横浜三塔について次のように書かれています。

> 太平洋航路華やかなりしころ、特徴ある三つの塔が立ち並ぶ姿は、横浜港の、あるいは日本の象徴でした。
>
> 入港する船員たちにとっては、三塔の位置によって航路を確認し無事に大桟橋に接岸したのです。
>
> 船客にとっては日本との別れ、再会の涙の三塔でもありました。
>
> 塔の名前を知らない船員たちは、帝冠様式の威風堂々とした茶色の塔を「キング」、グリーンの帽子をかぶった白い塔を「クィーン」、小振りの茶色の塔を「ジャック」と、それぞれ愛称をつけました。
>
> 愛称については、3つの説があります。
>
> 1　トランプのカード説
>
> 2　チェスの駒説
>
> 3　2 の「チェスの駒説」とほぼ同じですが、県庁も税関も前代の庁舎の愛称が、現代まで引き継がれたといわれています。ただし、チェスにはジャックはありません。
>
> とにかく横浜らしいロマンを感じさせる愛称ではありませんか。

三塔の愛称の由来について述べられたもので、この愛称は、三つの塔の特徴をよくとらえ、その名を知らぬ外国からきた人々が初めて目にするに横浜のシンボルとしてふさわしい愛称と言えるのではないでしょうか。

展示パネルでは前述の「縣廳物語」183 ページに掲載された大桟橋から見た三塔を「大桟橋から見える三塔」と題して紹介しています。

撮影された昭和 28 年当時は大桟橋の地平部分でもはっきりと三塔が見えていたようです。

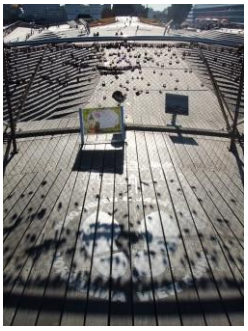
時代を経て現在の大桟橋でも見ることはできますが、かなり高い場所に登らないと「ジャック」が隠れてしまい、見ることはできません。

三塔が一度に見られる場所には「横浜三塔物語」という名の伝説があるそうです。

「横浜三塔物語」

「三塔の概要」の下側をご覧ください。横浜港周辺で三塔を一度に見ることのできる限られた3箇所のスポットを一日で巡ることができれば願いが叶うと言われるものです。

この伝説にちなみ、三つのスポットには足下にマークがあります。このマークを探して、横浜の港を巡ってみてはいかがでしょうか。



(三塔スポット、左: 県庁前、中:大桟橋、右:赤レンガパーク　公文書館職員撮影)

○　三塔比較

パネル中央の三塔の画像の右側では三塔の建築年代、高さを比較してみました。

名称	建築(開庁)年	高さ
キング ： 神奈川県庁	昭和 3 年	49m
クィーン:横浜税関	昭和 9 年	51m
ジャック:開港記念会館	大正 6 年	36m

(年代は『市民グラフよこはま』昭和 62 年 59 号、高さは横浜税関ホームページより引用)

新しい建物ほど塔が高くなっていることがわかります。横浜税関が最も高いのは、県庁が関係しているという逸話があるのですが、後ほど「クィーン」の項でご紹介いたします。

○　三塔の変遷

「横浜関内・西洋館絵入り年表(No. 2)」は横浜市が発行していた『市民グラフよこはま』の記事で、三塔も含めた関内地域の西洋館の歴史と変遷が一覧で見ることができるものになっています。三塔ができるまでの建物の変遷や、役割の変化などが絵入りで一目で分かる資料です。

では、ここから三塔それぞれの物語をご紹介しましょう。

キング「神奈川県庁本庁舎」

キングこと神奈川県庁本庁舎は、昭和３年、大正 12 年の関東大震災で焼失した県庁舎にかわりに建築されました。このパンフレットでは特に、県庁のコンペと開庁式について紹介します。

○　設計コンペと小尾嘉郎

新しい県庁舎の設計は、設計競技(コンペ)に付され決められることになりました。

公文書館所蔵資料『**神奈川縣廳舎競技設計圖集(K52-72-29)**』に募集規定が掲載されており第二条には当選賞金についての記述があります。

> 第二条　審査ノ上当選者ニハ下記ノ等級別ニヨリ賞金ヲ交附ス
>
> 　　一等賞　　一名　金五千圓（以下略）

一等賞金は5,000円と当時の知事の年俸(6,000円:『**大正１５年神奈川県職員録(K28-0-1-25)**』より)に匹敵する額だったのです。

また、その設計心得には

> 八、應募設計圖案ハ船舶出入ノ際港外ヨリノ遠望ヲ考慮シ成ル可ク縣廳舎ノ存在ヲ容易ニ認識シ得ル意匠タルコトヲ望ム

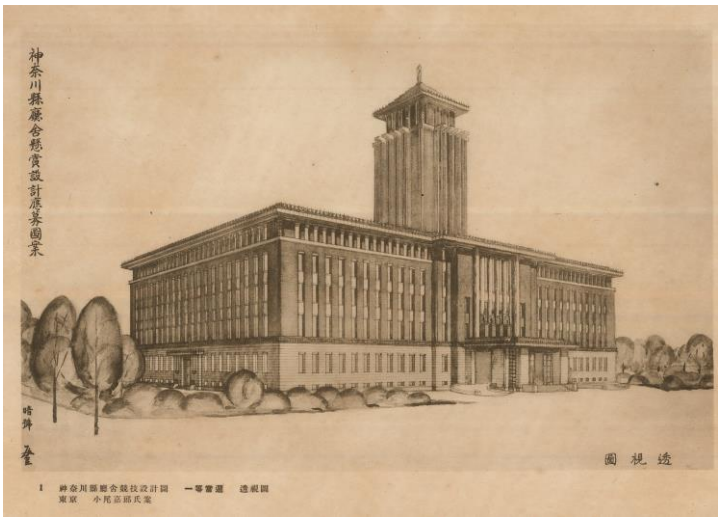
との規定があり、塔屋を念頭においたものとなっていました。

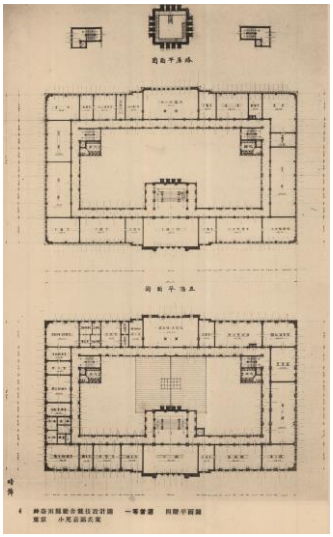
大正 15 年６月の応募締切までの応募総数は 398 通にのぼり、審査の結果、東京市電気局の技手小尾嘉郎が一等(当選)に選ばれました。

小尾の設計説明書が先述の『**競技設計圖集**』に(一例として)掲載されており、「意匠」の項目には次のような記述があります。

> イ、意匠　樞要なる一縣を統ふる廳舎をして尚且對外關系上我國の表玄關として求められたる本廳舎設計にありては穩健質實且つ嚴然として冒し難き我國風を表現するに足るべく然もその間一沫の情味漂ひ遠き外來者をして第一好印象を與ふべき外觀たらざるべからず。

つまり、『穏健、厳然として日本風をもちつつ外国からの来訪者への好印象を与える外観でなければいけない』との考え方で、塔屋に五重塔の意匠を取り入れるなど、和の要素を取り入れた洋風の近代建築の設計となっていました。





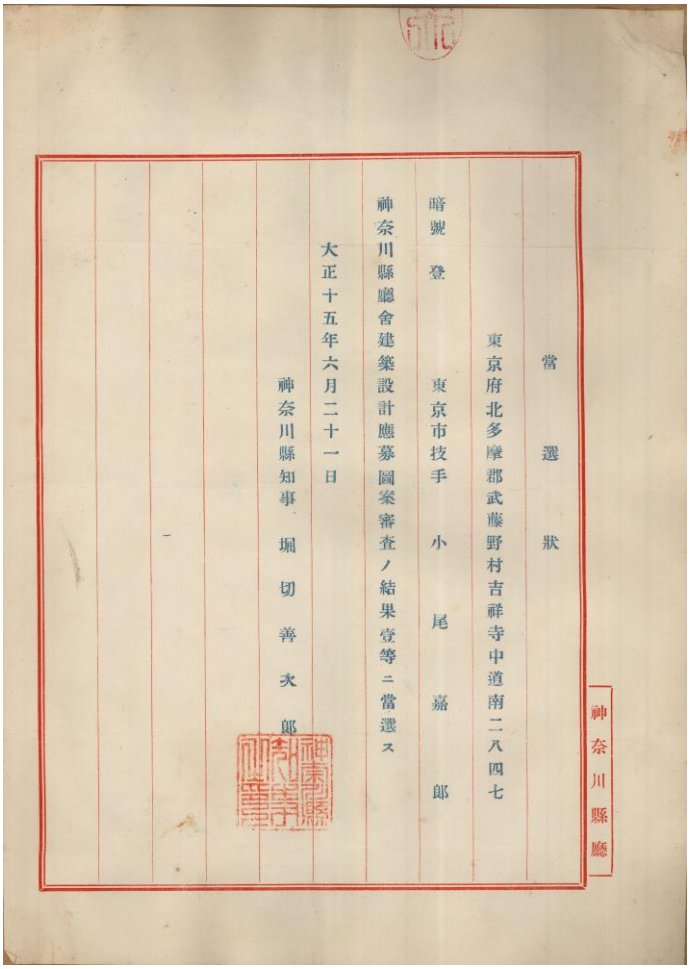
(左:塔が描かれた透視図と右:平面図)『神奈川県庁舎競技設計圖集』(公文書館所蔵 K52-72-29)より

公文書館では、一等当選者小尾嘉郎の資料を所蔵しています。

明治後期から昭和期までの資料で全 65 件（点数 149 点）あります。

今回の展示では、**「本庁舎関連重要写真等(No. 4)」**と**「本庁舎関係工事記録 2(No. 5)」**の原本を出品しました。また、冒頭の展示パネル(**「横濱三塔解説」**)には資料の概要と出品資料から県庁の工事写真(No.5 の工事事記録に収録)を掲載しています。

また、パネル上の画像のみの紹介ですが、「ＳＣＲＡＰ　ＢＯＯＫ(2601600054)」は神奈川県からの書類等が貼付されたスクラップブックで、この中には一等当選の通知が貼付けられています。


當選狀

東京府北多摩郡武藤野村吉祥寺中道南二八四七

暗號　登

東京市技手　小尾嘉郎

神奈川縣廳舍建築設計應募圖案審査ノ結果壹等ニ當選ス

大正十五年六月二十一日

神奈川縣知事　堀切善次郎

神奈川縣廳

(一等当選の当選状)

「SCRAP BOOK」

(公文書館所蔵小尾嘉郎氏関係資料 2601600054) より

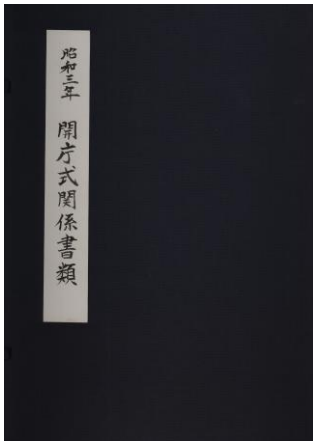
このスクラップブックには当選通知のほか、県庁の設計コンペに関する切り抜きや、県庁建設に関する新聞記事などが貼付けられており、当時をうかがい知る上で貴重な資料となっています。

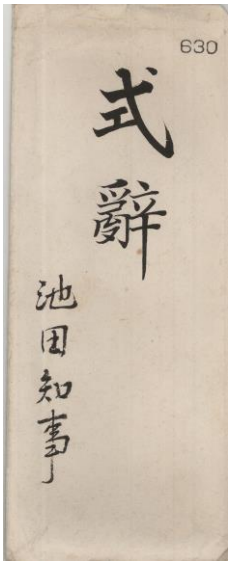
県庁関係のほかに、小尾の資料でまず目を引くのは嘉郎をはじめ、弟の八郎・菊三の日記類の多さであり、ついで、嘉郎への書簡や葉書、ならびに彼が記したと思われる短歌・俳句・詩集の類が挙げられ、これらは、小尾の少年時代の様子をはじめとして、彼の文化的嗜好や個人的な交友関係を知る上で興味深いものとなっています。「キング」の設計者小尾嘉郎の人となりをこの資料からご覧いただくのも良いかもしれません。

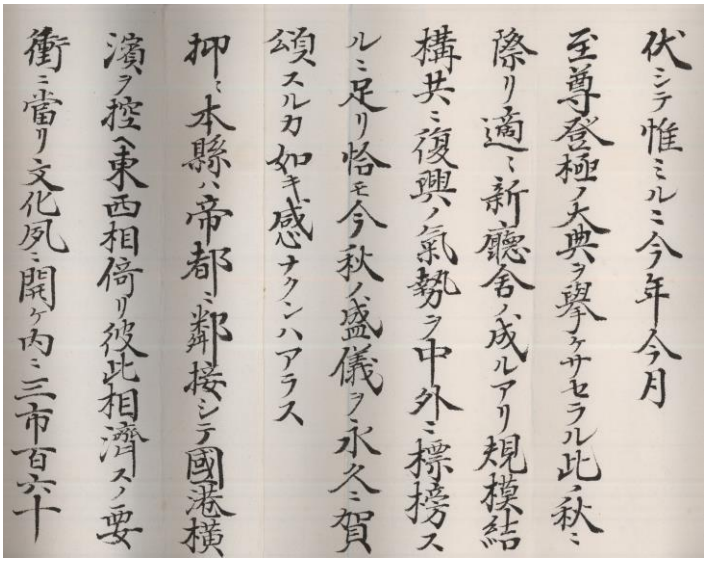
○　開庁

昭和３年、県庁舎は完成し、11 月１日には開庁の日を迎えます。この日行われた開庁式については　**「神奈川縣廳物語(No. 3)」**120 ページ以降に数多くの資料が紹介されています。

この資料に紹介されている、開庁式の出席者、当日の役割分担、案内状、次第、県知事の式辞などの原本の多くは公文書として**「開庁式関係書類(県各課 1-2-28)」**にまとめられており、公文書館に保存されています。





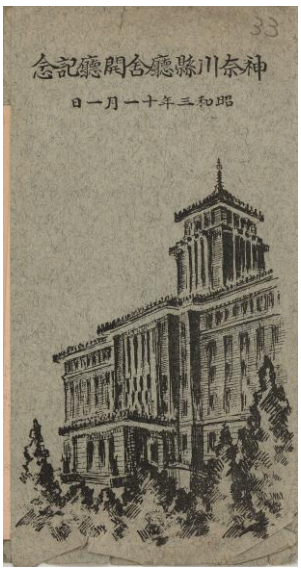


(左:簿冊と右:知事の「式辞」(一部))「開庁式関係書類」公文書館所蔵歴史的公文書　県各課 1-2-28)より

また、この公文書の中に開庁式の記念展覧会が行われており、公文書館にその時のものと思われる写真が十枚ほど保存されています。

(開庁式の展示)「昭和三年　開庁式展示写真」(公文書館所蔵歴史的公文書 BH6-2)より

神奈川県庁の開庁に関する資料はこのほかに、開庁記念の絵葉書も公文書館で所蔵しています。



（上:外観、左下:大会議場、右下:包紙）『神奈川県庁舎開庁記念』（公文書館所蔵、K52-0-120）より

昭和３年 11 月１日付けで内容は庁舎正面からの外観と大会議場の２枚となっています。

この絵葉書、外観は完成していますが、地面のあたりをよく見ますと積まれた資材や作業をしている多くの人が見られます。この葉書の撮影時は、まだ工事中だったようです。

冒頭の展示パネル（**「横濱三塔解説」**）に拡大したものを掲載しておりますのでそちらもご覧になっていただければ分かりやすいかと思います。

クィーン「横浜税関」

クィーンこと横浜税関は、昭和９年に関東大震災で被災した旧税関庁舎にかわり建築されました。

神奈川県庁本庁舎の後、三塔では最後に建築されたもので、塔の高さは 51m、モスクを彷彿させるイスラム様式の緑色の屋根が特徴です。このパンフレットでは、県庁を意識したとされるクィーンの塔の高さにまつわるエピソードを紹介します。

○　三塔で一番高くなった訳

「横浜税関百二十年史(No. 6)」429 ページに塔の高さが県庁より高くなったエピソードが掲載されています。

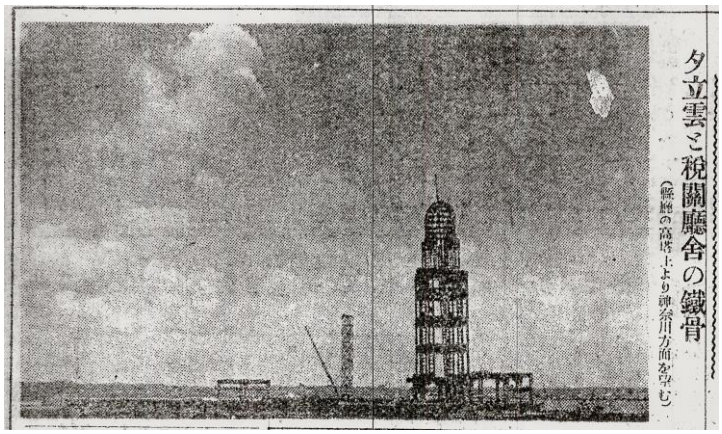
昭和 49 年 9 月 22 日(日)付の朝日新聞の「横浜新景シリーズ・港 2」欄は、「塔の伝説・県庁より高くしろ」として、

「横浜税関は、海岸通りに立つ、ベージュ色のタイル張りの建物。レンガ作りの旧庁舎が関東大震災で倒壊した後、昭和七年に着工され、九年に完成した。港に面した側にある塔がシンボルだ。ろくしょう(緑青)のついた円屋根が美しい。税関人士たちは、この塔が生まれたいきさつをおもしろおかしく語り伝えている。税関の設計が出来たとき一見におよんだときの税関長は、烈火のごとく怒った。「これは何だ」。税関の塔が昭和 3 年に完成していた県庁の塔より二メートル低かった。「税関は国の機関、県庁ごときに・・・」たちまち、五階の一部が削られ、塔が四メートル背伸びした―現在税関の塔は五十一メートル、県庁の塔は四十九メートルである。そして、五階建てなのに柔剣道場のところだけは四階までしかない。

伝説は、税関長までの名前までは伝えていないが、資料によると、昭和六～九年の税関長は第二代金子隆三氏だった、税関に保管されていた古い資料は昭和 20 年代米軍に接収され、大部分が紛失してしまい、伝説の真偽を確かめるすべはない。しかし、今でも口から口へと、若い職員に語り継がれている。」と塔に関するエピソードを伝えている。

当時の資料は紛失しているとのことで、実話か否か証明する術はないようですが、税関百二十年史ではさらに当時の新聞記事として、庁舎完成前年の昭和８年８月３日の横浜貿易新報「地上百七十尺・港頭に君臨する新税関の素天ッ辺・きのふ天下晴れての上棟式」という記事を紹介しています。実際の記事が公文書館のマイクロフィルムで保存されていますので、紹介します。

その前に同じ横浜貿易新報の前日掲載された税関庁舎の工事中の骨組みの写真をご覧ください。



「夕立雲と税關庁舎の鐵骨」
横浜貿易新報　昭和８年８月２日
(公文書館所蔵、MF1933-7～8)より

「県庁の高塔上より神奈川方面を望む」と記されています。

続いて以下が実際の記事です。

「地上百七十尺・港頭に君臨する新税関の素天ッ辺・きのふ天下晴れての上棟式」

『横浜貿易新報　昭和８年８月３日』（公文書館所蔵、MF1933-7～8)より

港頭に君臨する

新税關の素天ッ邊

きのふ天下晴れての上棟式

竣工は來年三月

震災後十年、官廳復興の[illegible]を承けつた横濱税關待望の新廳舍ついこの一月末、起工したと思つたら、もう頑丈な鐵骨組立は終つてきのふ（二日）午前十一時から天下晴れて上棟式を擧行

◇官廳の建物としては何しろ日本一の縣廳が、直ぐそばにガッチリ聳えてゐるので、後から出來る所に相當な惱みがあり、工費豫算も縣廳より少ないと云ふのに、何かしら縣廳を凌駕して、「俺の方が……」と云ひたいところが、スックと屋上に突立つ塔屋に現はれた。即ちこのタワー地を抜くこと百七十尺で正に横濱一

◇敷地の面積は約六八七五平方米（約二千八十坪）建物は五層でネオモダン、來年三月には港頭に見んごと出來上つて、其タワーは縣廳や記念會館のそれとトリオをなして遠く觀音崎、東京灣口からも航行船舶から望める

皇大神宮御加護によるものとある

この日、營繕管財局長官たる黑田大藏次官によつて鎭打ちを終つて滿事滯ほりなく濟み

横山知事、大西市長、有吉商工會議所會頭、鬼頭裁判所長、松坂檢事正、長川營繕局長、大熊工學博士、平沼上郎兩貴族院議員　戸井、三宅兩代議士、小串縣會議員、中村房次郎氏

その他約二百名の來賓・卓を共にしてモダン税關廳舍の出現に乾杯

金子税關長の挨拶に應じて知事の祝福の言葉あり骨組ばかりの廳舍の二階にほぎの聲は高かつた

◇さて、出來上る廳舍は各階次のやうに割當られる事になつてゐる

△一階　玄關、廣間、公衆閲、總務課、檢査課、監視部、宿室等△二階　會計課、總務課、統計係、調査係、植物檢査係、病菌昆蟲調査室△三階　貴賓室同次室、税關長室、部長室、應接室、會議室、圖書檢閲室、税關長官房、監視部出務係、保税地域係、審理係、記者室等△四階　會議室、柔劍道場、標本室食堂、電話交換室△五階　講堂映畫檢閲室、救護室、分析室、印刷室△屋階　機械室、豫備室

太わくで囲んだ部分が税関百二十年史が引用した部分で、次のように書かれています。

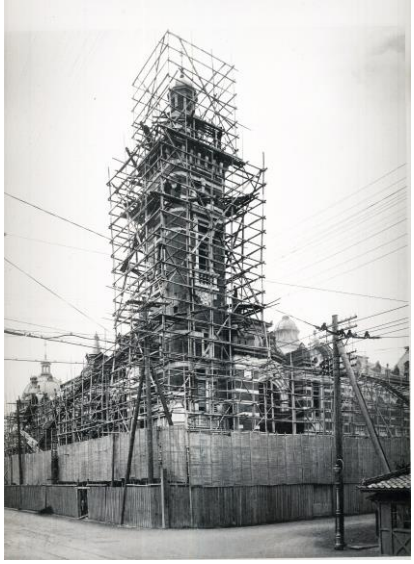
> 官庁の建物としては何しろ日本一の県庁が、直ぐそばにガッチリ聳えてゐるので、後から出来る所に相当な悩みがあり、工費予算も県庁より少ないと云ふのに、何かしら県庁を凌駕して、「俺の方が･･･」と云ひたいところが、スックと屋上に突立つ塔屋に現はれた。即ちこのタワー地を抜くこと百七十尺で正に横浜一
>
> (中略)
>
> 敷地の面積は約六八七五平方米(約二千八十坪)建物は五層でネオモダン、来年三月には港頭に見んごと出来上って、其タワーは県庁や記念会館のそれとトリオをなして遠く観音崎、東京湾口からも航行船舶から望める

税関百二十年史ではこの記事を添えて「伝説に真実味を感じさせるものがある」と締めくくっています。

現代においてもランドマークを意識して新たに建てられたビル、タワーは高さを競って建築されるものがあるという状況からすれば、真実味がある話と言ってもよいのではないでしょうか。

ジャック「横浜開港記念会館」

ジャックこと横浜開港記念会館は大正６年、明治 39 年に火災で焼失した、「横浜町会所」の再建として開港 50 周年を機に建築されました。　このパンフレットでは、建設から災害を乗り越え復元し、現在の姿に至るまでの変遷を、冒頭の展示パネル(**「横濱三塔解説」**)よりもう少し詳しく、主に**『開港記念横浜会館図譜(No. 10)』**と**『横浜市開港記念会館保存修理工事報告書(No. 11)』**の中から紹介します。



(左:工事中、右:完成当初)　『開港記念横浜会館図譜(No.10)』より

○　「横浜町会所」

「保存修理報告書」１ページにはその概要が次のように記述されています。

> **横浜町会所**　明治期になると、官庁街の整備に対応して、日本人街の橋頭堡的施設として町会所の建設が企画され、明治 7 年(1874)、アメリカ人建築家(R.P.Bridens)の設計により当地に「横浜町会所」竣工した。木骨石造 2 階建で、本町通りに面した正面中央に時計台が聳えたて、横浜駅(明治 5 年)、横浜税関(明治 6 年ともにブリジェンス設計)とともに横浜三大洋風建築のひとつに数えられた。施行は清水喜助と伝えられる。
>
> 横浜町会所は、横浜貿易商人の拠点であるとともに、市制施行(明治 22 年)以前においては「タウンホール」でもあり、特徴的な塔によって「時計台」として市民に長く親しまれた。(以下略)

この「時計台」の姿は**「開港記念横浜会館図譜」**に残されています。

（町会所）『開港記念横浜会館図譜(No.10)』)より

(開港記念会館敷地内の案内　公文書館職員撮影)

この地は岡倉天心の誕生の地である福井藩横浜商館(石川屋岡倉覚右衛門)が所在した場所であり、開港記念会館の敷地内には記念碑が建てられています。

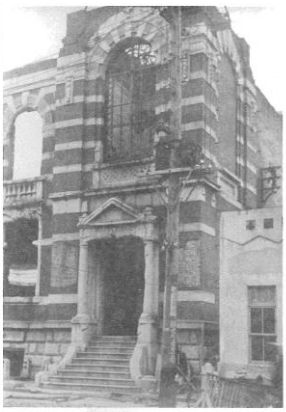
(右:岡倉天心生誕之地の碑 公文書館職員撮影)

○　関東大震災とドーム復元

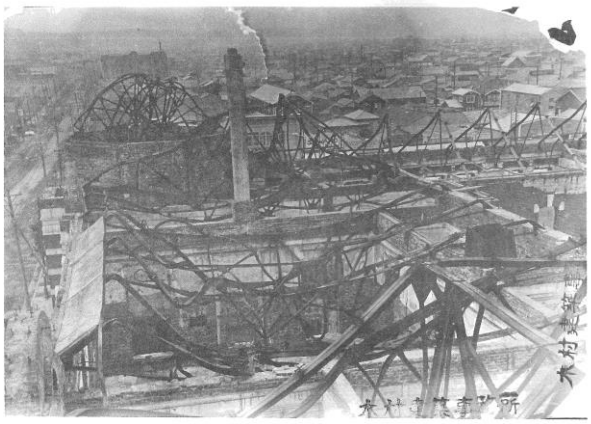
現在も建設当初の面影を残している開港記念会館ですが、関東大震災により大きな痛手を負っています。「保存修理報告書」の７ページ「関東大震災と震災復旧」に次のように記述されています。

> **震害**　大正 12 年(1923)9 月 1 日の関東大地震により、開港記念横浜会館は高塔部も含めて煉瓦造壁体の倒壊を免れたが、火災により、屋根及ドーム群、木造床等創建時のインテリアを失った。被害状況は次のように伝えられている。
> 「開港記念横浜会館は其の基礎の堅牢なること結構の入念なりしとにより、さしもの大震に会し外郭は何等の異常なかりしも、猛火の包囲に会しては如何ともする能はず、外装を遺して内部は見る影もなく焼失し、鉄骨の如きは殆ど飴状に撓み、火災の威力を窺はしめたり」

37－1．関東大震災被災状況



37－2．



(関東大震災の被害状況)　『横浜市開港記念会館保存修理工事報告書(No.11)』より

震災からの復旧工事はその後昭和２年５月に竣工し再建されたましたが、屋根ドーム群は欠落した状態で建設当初の姿に復すことはできませんでした。

(左、開館時)　『開港記念横浜会館図譜(No.10)』より

(右、再建後)　『横浜市開港記念会館保存修理工事報告書(No.11)』より

時を経て平成元年ドームが復元することになるのですが、**同報告書** 14 ページに、その経緯が記述されています。

復元事業に至る経緯　横浜市開港記念会館は、関東大震災で外壁を残して屋根と内部を焼失し、その後の復旧工事を経て再建されたが、屋根ドーム群が欠落したまま陸屋根の状態となっていた。

昭和 60 年、冊子「昭和を生き抜いた学舎」制作のための調査で、震災時に焼失していたと思われていた大正 6 年の竣工時の設計図を創建時と震災後の復旧工事に関係した木村龍雄の次女、城千代子氏が保管していることがわかり、その後横浜市に寄贈されたのを機会にドーム復元事業が策定された。

ドーム復元事業は、昭和 64 年に市政 100 周年および開港 130 周年を迎えるにあたり、同会館を創建時の姿に戻し、大切な市民財産として再生保存を図ろうとするものであった。

復元工事は平成元年に完成し、開港記念会館は６月 16 日に再オープンしました。
具体的な復元内容は同報告書に一覧表でまとめられています。

表２－１　復原概要

部位		現状建物の状態	復元（除去、新設、改修）の内容	理由
屋上		・震災復旧時に設けたＲＣ造陸屋根。（防水層、防水押え） ・ＲＣ造パラペット、ペントハウス（飾り、繰型共）は、人造石洗出し仕上げ。	・コーニスから上のＲＣ造パラペット、ペントハウス、及び陸屋根の防水層、防水押えを除去。（ただし北面、中庭面のコーニスは現状のまま） ・躯体その他について、構造上の補強は行わない。 ・屋根、ドームはＲＣ造スラブの上に鉄骨架構、天然スレート及び銅板葺。 ・尖塔、飾り、繰型等は銅製。	・原形に復元。ただしＲＣ造スラブは、躯体の耐力上現状のままとし、外観意匠を復元。 ・北面、中庭面は復元の重点でない。
高塔	ドーム	・ドームは銅板貼で、原形のまま。頂部でポータルは原形の意匠ではない。	・ドームは現状のまま。（後に改修することに変更）頂部ポールを除去、銅製ポールを取付。	・原形に復元
	手摺	・Ｒ５階の手摺はなく、Ｒ４階の鉄製手摺は、原形のものではない。	・銅製手摺を取付。	・原形に復元。
	旗竿受	・基部のみ残存。	・残存部を除去、銅製旗竿受、持送りを取付。	・原形に復元
外装		・原形のまま。ただしサッシ等がアルミ製に、竪樋が樹脂パイプに改修されている。	・現状のまま。ただし仕上の浮き、クラック等を最小限補修。道路面の竪樋を銅製に取替え。	・剥落、漏水の防止。
内装		・震災復旧時改修のまま。	・現状のまま。ただし一部、浮き剥離等を補修。	・震災復旧期の意匠を尊重。
外構		・門灯は、南面４基、東面３基の基部が残存している。	・８基（後に南面４基に変更）を新設。	・原形に復元
その他		・空調機の一部が陸屋根に設置されている。	・２階一室を空調室に改修。 ・２階広間トップライトは、上部に照明を設置。 ・その他空調、衛生及び電気設備は、復元に関するものに絞って実施。	・屋根の形態上。

(復元概要)　『横浜市開港記念会館保存修理工事報告書(No.11)』より

○　文化財指定

ドームの復元と同じ平成元年９月、横浜開港記念会館は文化保護法による重要文化財の指定を受けました。「**保存修理報告書**」10 ページには文化財指定の官報の告示内容が引用されていますが、実際の官報が公文書館に所蔵されていますので紹介します。

○文部省告示第百二十四号

文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二十七条第一項の規定により、次の表に掲げる文化財を重要文化財に指定する。

平成元年九月二日

文部大臣　石橋　一弥

名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
横浜市開港記念会館	一棟	煉瓦・鉄骨煉瓦及び鉄筋コンクリート造、建築面積一五三六・九三平方メートル、二階建、地下一階、塔屋付、スレート及び銅板葺 附　設計図（青写真）　四十六枚 大正六年当初詳細図　三十八 大正十五年復旧時詳細図　八	横浜市	神奈川県横浜市中区港町一丁目一番地	神奈川県横浜市中区本町一丁目六番地
浄興寺本堂	一棟	桁行一八・二メートル、梁間二七・八メートル、一重、入母屋造、向拝三間、鉄板葺	浄興寺	新潟県上越市寺町二丁目	新潟県上越市寺町二丁目
種月寺本堂	一棟	桁行二四・〇メートル、梁間一八・四メートル、一重、寄棟造、茅葺（鉄板仮葺）、背面開山堂附属、桁行九・四メートル、梁間五・五メートル、一重、切妻造、鉄板葺、東端本堂に接続 附　棟札　二枚 元禄十二年己卯暦七月十二日の記があるもの　一 再建開山堂文化龍集癸酉初秋七月上棟之日の記があるもの　一	種月寺	新潟県西蒲原郡岩室村大字石瀬	新潟県西蒲原郡岩室村大字石瀬
蓮華峰寺骨堂	一棟	桁行一間、梁間一間、一重、宝形造、茅葺	蓮華峰寺	新潟県佐渡郡小木町	新潟県佐渡郡小木町
旧平田家住宅（山梨県北巨摩郡小淵沢町）	一棟	桁行一九・八メートル、梁間一一・〇メートル、入母屋造、茅葺	小淵沢町		
森村家住宅（奈良県橿原市新賀町） 主屋	四棟	桁行二四・一メートル、梁間一三・九メートル、切妻造、茅葺（鉄板仮葺）、南面、東面、北面庇付、本瓦葺 附　願書　一枚 奉願建直家繪圖　享保拾七年子十月の記がある 土蔵造、桁行六・七メートル、梁間四・八メートル、二階建、切妻造、本瓦葺、蔵前附属 桁行一一・八メートル、梁間六・九メートル、四面庇付、桟瓦葺、主屋間取合附属、本瓦葺 長屋門、桁行一九・三メートル、梁間四・〇メートル、切妻造、茅葺（鉄板仮葺）、北面庇付、桟瓦葺、西面突出部　桁行四・〇メートル、梁間三・〇メートル、切妻造、北面庇付、西面下屋附属、桟瓦葺 附　東米蔵・納屋　一棟 桁行二一・一メートル、梁間八・〇メートル、切妻造、二階建、南面、北面庇付、桟瓦及び本瓦葺 西米蔵・納屋　一棟 桁行一三・二メートル、梁間九・二メートル、切妻造、南面庇付、桟瓦葺 納屋・一棟 桁行二五・六メートル、梁間三・〇メートル、切妻造、桟瓦及び本瓦葺、南面突出部附属	森村榮		
内蔵					
別座敷					
表門					

（上）（開港記念会館の重要文化財指定告示）

官報　平成元年９月１日-９月11日

（公文書館所蔵、G31-124-89-16）より

（下）（敷地内の案内）

重要文化財であることが記されています。

（公文書館職員撮影）

○　**重要文化財としての修復工事**

「**保存修理報告書**」は本来平成 11 年から 12 年にかけて行われた、重要文化財としての補修工事についてまとめられた刊行物です。

そこでごく簡単ではありますが、最後にこの工事についてご紹介します。

同報告書 17 ページにその経緯が記されています。

> **事業にいたるまでの経緯**（中略）
>
> 昭和 63 年 6 月 6 日から平成元年 5 月 31 日にかけては、関東大震災で焼失したドーム群および屋根を修復し、建設当初の外観に復元する改修工事を実施している。
>
> この 10 年後、平成 11 年 4 月 24 日午後 1 時頃、表玄関脇にある階段室天井の漆喰が約 2 ㎡落下した。中区は会館を閉鎖し、原因調査を行うこととなり、(中略)この結果、建物外部では本石・人造石・タイルのひび割れと剥離、玄関庇・軒樋等の漏水が確認された。内部においても、漆喰天井・壁の各所で剥離が確認され、天井部分では落下の危険性も指摘された。
>
> 保存整備についての検討の結果、修復の必要があるとし、改修工事の実施を決定した。

この工事の概要は、外壁の補修など優先順位の高い補修項目から順次行っていくというものでしたが、この工事には重要文化財の補修工事として国から補助金が出ているため、補助金に関する書類として実際の工事書類が神奈川県に提出され、これを含む公文書が神奈川県の歴史的公文書として公文書館に保存されています。

『平成 11 年度文化財関係国庫補助事業に係る額の確定について（重要文化財横浜市開港記念会館建築物保存修理事業）(No. 12)』

この書類は「**保存修理報告書**」の工事に関係する実際の公文書です。図面・写真などが収録されていますので、ご覧いただければ幸いです。

三塔をもっと知りたい-三塔に関する図書-

[展示資料 13～41] は、県立図書館で所蔵している三塔それぞれに関係した資料です。

同じ建物であっても作成された時期、発行者、執筆者などによって様々な記述がなされていますし、「横浜の西洋館」、「横浜港の近代建築」、「観光案内」など作成目的によっても捉え方がそれぞれ違いますので、できるだけ多くの資料に目を通していただき、読んだ皆様がそれぞれの「横浜三塔物語」を描いていただければと思います。

なお、三塔それぞれの記述のあるページに「しおり」を挿んでいます。参考にお使いいただければ幸いです。

県立図書館・公文書館共同展示 「横濱三塔物語」-King・Queen・Jackを巡る旅-　展示目録

1　横浜の三塔

No.	資料名	年代	西暦	展示状態	所蔵者・出典等
1	横濱三塔解説	昭和９年	1934	パネル	(横濱港の三塔) 公文書館所蔵　刊行物 K683-1-1-34　『横浜港』　横浜市土木局
		平成10年	1998		(三塔の地図) 公文書館所蔵　刊行物 K683-1-1-34 『横濱之地圖』　横浜市コンベンションビューロー
		平成元年	1989		(大桟橋から見える三塔) 県立図書館所蔵　刊行物 K52-93-a 『神奈川縣廳物語』　神奈川県
		(開港記念会館解説)			
		大正６年	1917	パネル	公文書館所蔵　刊行物 K52-1-2　『開港記念横浜会館図譜』清水建設
		平成13年	2001		県立図書館資料 K52.1-92-a 『横浜市開港記念会館保存修理工事報告書』 横浜市教育委員会
		(横濱税関)			
		平成21年	2009	パネル	公文書館所蔵　刊行物 K27-1-27『昭和の横浜』　横浜市史資料室
		平成21年	2009		公文書館所蔵　刊行物 K20-1-7『横浜歴史と文化』　有隣堂
		昭和９年	1934		県立図書館所蔵 K67.1-137 「横浜税関庁舎新築記念絵葉書」　横濱税関
		(神奈川県庁)			
		昭和３年	1928	パネル	公文書館所蔵　刊行物 K52-0-120　「神奈川県庁舎開庁記念」［絵葉書］
		-	-		公文書館所蔵　小尾嘉郎氏関係資料 2601600056　「本庁舎関係建設記録2」
		大正15年～	1926～		公文書館所蔵　小尾嘉郎氏関係資料 2601600054　「SCRAP BOOK」
		明治42年	1909		(小尾嘉郎氏関係資料解説) 公文書館所蔵　小尾嘉郎氏関係資料 2601600054　「明治42年度　暑中休暇日記」
2	横浜関内・西洋館絵入り年表	昭和62年	1987	パネル	公文書館所蔵　刊行物 K315-1-78-59　『市民グラフヨコハマ』　横浜市

２キングについて-設計者「小尾嘉郎」の記録-

No.	資料名	年代	西暦	展示状態	所蔵者・出典等
3	神奈川縣廳物語	平成元年	1989	原資料	県立図書館所蔵 K52-93-a 神奈川県
4	本庁舎関連重要写真等	-	-	原資料	公文書館所蔵　小尾嘉郎氏関係資料 2601600055
5	本庁舎関係建設記録2	-	-	原資料	公文書館所蔵　小尾嘉郎氏関係資料 2601600056

３クィーンについて-横浜税関のあゆみ-

No.	資料名	年代	西暦	展示状態	所蔵者・出典等
6	横浜税関百二十年史	昭和56年	1981	原資料	県立図書館所蔵 K67.1-144-a　横浜税関
7	横濱税關一覧	明治33年	1900	原資料	県立図書館所蔵 K67.1 30　横浜税関
8	横浜税関百年の跫音	昭和47年	1972	原資料	県立図書館所蔵 K67.1-114　横浜税関関税広報官
9	横浜港	昭和９年	1934	原資料	公文書館所蔵　刊行物 K683-1-1-34　『横浜港』　横浜市土木局

４ジャックについて-建設当時の図譜、平成の修理事業-

No.	資料名	年代	西暦	展示状態	所蔵者・出典等
10	開港記念横浜会館図譜	大正６年	1917	原資料	県立図書館所蔵 K52-1-2　『開港記念横浜会館図譜』
11	横浜市開港記念会館保存修理工事報告書	平成13年	2001	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-92 a 『横浜市開港記念会館保存修理工事報告書』 横浜市教育委員会
12	平成11年度文化財関係国庫補助事業に係る額の確定について (重要文化財　横浜市開港記念会館建築物保存修理事業)	平成12年	2000	原資料	公文書館所蔵　歴史的公文書 H17-104-02

５三塔をもっと知りたい－三塔に関する図書－

No.	資料名	年代	西暦	展示状態	所蔵者・出典等
13	神奈川県建築史図説	昭和37年	1962	原資料	県立図書館所蔵 K52-7-b　神奈川県建築士会
14	残照	昭和57年	1982	原資料	県立図書館所蔵 K52-29-a 朝日新聞社横浜支局
15	かながわの近代建築	昭和58年	1983	原資料	県立図書館所蔵 K52-33-a 河合正一
16	横浜・港・近代建築	昭和59年	1984	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-84 横浜市教育委員会事務局社会教育部
17	横浜	平成元年	1989	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-41　横浜市建築局企画管理課
18	かながわの建築物１００選	平成3年	1991	原資料	県立図書館所蔵 K52-49-b　神奈川県都市部建築指導課
19	横浜・都市の鹿鳴館	平成3年	1991	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-43　鈴木智恵子
20	写真で見る横浜の都市デザイン	平成5年	1993	原資料	県立図書館所蔵 K31.1-117　横浜市都市計画局都市デザイン室
21	ヨコハマ建築・都市物語	平成7年	1995	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-73　吉田鋼市
22	建築ｍａｐ横浜・鎌倉	平成14年	2002	原資料	県立図書館所蔵 K52-108　ギャラリー・間
23	東京＆横浜の長寿建築	平成16年	2004	原資料	県立図書館所蔵 K52-117 川本明生
24	近代建築散歩　東京・横浜編	平成19年	2007	原資料	県立図書館所蔵 K52-128 宮本和義
25	図説近代神奈川の建築と都市	平成25年	2013	原資料	県立図書館所蔵 K52-142-a 神奈川県建築士会建築史図説編纂特別委員会
26	神奈川県庁新築工事概要	昭和3年	1928	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-22　神奈川県
27	神奈川県庁舎競技設計図集	昭和4年	1929	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-22-2 神奈川県庁舎建築事務所
28	霧笛と共に	平成元年	1989	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-83-a　横浜市開港記念会館史刊行委員会
29	横浜公共建築写真集	平成3年	1991	原資料	県立図書館所蔵 K52.1-119 横浜市建築局建築部企画管理課
30	街・明治大正昭和　２	昭和55年	1980	原資料	県立図書館所蔵 521.6-23-2　尾形光彦
31	近代建築ガイドブック　関東編	昭和57年	1982	原資料	県立図書館所蔵 523.9-35　東京建築探偵団
32	横浜・都市と建築の１００年	平成元年	1989	原資料	県立図書館所蔵資料 521.6-59　横浜市建築局企画管理課
33	東京・横浜建築画百景	平成5年	1993	原資料	県立図書館所蔵 523.13-3　中尾良一
34	建築ガイド・都市ガイド　東京圏	平成10年	1998	原資料	県立図書館所蔵 523.13-4 鈴木博之
35	写真集成日本の近代化遺産　１（関東編）	平成12年	2000	原資料	県立図書館所蔵 523.1-118-1　増田彰久
36	ハマの建物探検	平成14年	2002	原資料	県立図書館所蔵 291.37-196 横浜シティガイド協会
37	首都圏名建築に逢う　続	平成21年	2009	原資料	県立図書館所蔵 523.13-13-2 東京新聞編集局
38	近代建築史断章　建築家・小尾嘉郎物語	平成15年	2003	原資料	県立図書館所蔵 521.6-161 佐藤嘉明
39	近代化遺産を歩く	平成13年	2001	原資料	県立図書館所蔵 523.1-121　増田彰久
40	明治・大正建築覚え書	昭和59年	1984	原資料	県立図書館所蔵 521.6-40　光藤俊夫
41	かながわ建築探訪	平成6年	1994	原資料	県立図書館所蔵 521.8-17 神奈川県教育委員会

＊本パンフレットに関するお問い合わせ等は、神奈川県立公文書館資料課（電話 045-364-4461）までご連絡ください